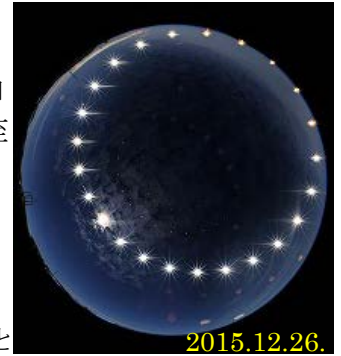


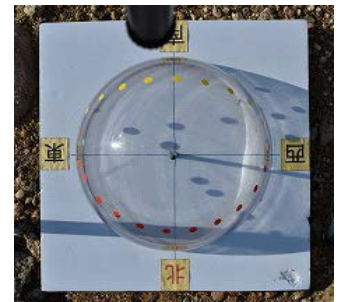


◆ 白夜の世界

昭和基地は、南緯 69 度 0 分、東経 39 度 35 分にあります。南緯 66.6° 以南の南極圏に位置しているため、1 月 21 日までの約 2 か月間、太陽が一日中沈まない「白夜」となります。私たちが昭和基地入りしたのは、12 月 23 日。前日の 22 日が夏至（日本では冬至）でしたので、白夜の真っ只中でした。一日中、昼間のように、外が明るいので、つい夜更かしをしてしまいます。ずっと日を浴びているせいか、体内リズムにも変化が起きているような気がしました。26 日、南極授業で使用する透明半球上での太陽追尾を行いました。結果は授業でご覧のとおり。太陽の移動方向も、東→北→西。クイズは正解していましたか？設営作業をしながら、1 時間ごとに半球に太陽の位置をプロットしました。上の写真は、同行取材で参加している十勝毎日新聞社の塩原記者が撮影したものです。



2015.12.26.



それにしても、23.4° の地軸の微妙な傾きと、南極大陸がほぼ南極圏に収まる大陸配置が織りなす、白夜をはじめとする様々な自然現象。神の仕業なのか、奇跡的なバランスと言う他ありません。

ここで一句 「疲れ果て浅き夢見し初白夜」

◆ JARE57 隊員紹介

松元 誠 (40) 越冬隊 定常観測 (気象) 鹿児島県出身
気象庁観測部 第 51 次越冬隊

入庁後は、和歌山潮岬、海洋気象観測船、南鳥島、父島など様々な所で気象の観測業務に携わる。現在は本庁勤務。広報室勤務時は、メディア対応などに追われた。海底地震計のケーブル破損による機器の誤作動で緊急地震速報の誤報が生じたときの対応に苦慮したことが今となっては思い出。57 次では、気象庁から 5 名が越冬し定常観測にあたるが、そのとりまとめ役を担う。2 回目となる越冬は、リーダーとして、皆を安全に無事に帰国させることに心を砕きたいと強い決意。多趣味であり、釣り・ウエイクボード・シーカヤックなどを愛する。皆さんへは「**苦手意識を持たないで、何事にも 100% でチャレンジを**」とのアドバイス。全国転勤の仕事なので、もしかすると、次は松山地方気象台？



しらせ大学で講義

◆ 56 次隊主催「57 次隊歓迎会」

27 日夕刻。56 次越冬隊の方々による 57 次隊歓迎会が管理棟で行われました。三浦 56 次越冬隊長の歓迎の挨拶。ここは南極？と疑うほどの、豪華な料理の数々。そして、56 次越冬隊員の方々の心温まるおもてなし。旧知の隊員との再会や長かった越冬期間もあとひと月という安堵感もあるのでしょう、皆さん、にこやかにほっとした表情で話が弾んでいました。



三浦 56 次越冬隊長



56 次越冬隊員の方々

年が明け、しらせ接岸後は、最後の大事な物資輸送が待っています。

◆ 食彩 ANTARCTICA

越冬交代後、しばらくして生鮮食品が底を尽くそうです。ですので、次の隊が運んでくる生鮮品は何よりもうれしいそうです。歓迎会にも、その貴重な食材が使われていました。



まるで、ホテルのパーティー？お約束のソフトクリームも・・・。

56 次隊にも調理担当隊員が 2 人います。